

田富小だより

3月19日は卒業式です。6年生にとっては、小学校生活最後の授業となります。練習に臨む6年生の顔も、日に日に真剣さを増しています。新たなスタートに向け、思い出に残る式となるよう、全教職員で力を合わせて準備を進めています。新型コロナウイルス感染対策のため、在校生は5年生のみの出席となります。1年後の自分を思い描き、目指すべき姿を持つ機会としてほしいと思います。



子供との時間を大切に

親なら誰しも、子供に少しでも豊かな生活をさせようと思っていることでしょう。そのため、仕事を増やしたということもよくある話です。しかし、その結果子供と触れ合う時間が減り、子供がさみしい思いをしているというケースもめずらしくありません。子を思う親の気持ちと親を求める子どもの気持ちがすれ違うのは、なんともやるせないものです。子供が、物質的な豊かさよりも心のふれあいを求めていることもあるのです。

仕事を減らすのは難しいかもしれませんが、そんな時は、一緒にいる時間のふれあいの密度を上げることをお勧めします。一緒に食卓を囲んでいても、一緒に居間でくつろいでいても、それぞれスマホやタブレットを操作していたのでは、ふれあいの時間とは言えません。食事の準備や後片付けをしながら、また食事をしながら、そしてテレビを見ながらなどのちょっとした時間を使って、子供と話をする機会を確保するよう心がけてみてください。高学年になるとうるさそうな態度をとるかもしれませんが、内心はうれしく思っているはずで、会話のコツは、聞き役に徹することです。子供の話を聞いていると、そんな時はこうすればいいと指導したくなります。しかし、子供はただ気持ちを聞いて共感してほしいと思っているだけの場合がほとんどです。話を聞いてもらい気持ちの整理がつけば、困難な問題にも子供は再び自分で向かっていくのです。

子育ての時間は、あっという間に過ぎていきます。子供が親を求めてくれる時間も長くはありません。親にとっても子供にとっても貴重な時間を大切にしてほしいと願います。

地域住民の生涯学習の場としての学校2

新町自治会の佐野民子さんが、吊るし雛の作品展示を申し出てくださいました。吊るし雛は、小さな人形をたくさん作り、それをつなげて吊るしたものです。ひな人形がとても高価なものだった江戸時代に、庶民が生まれてきた我が子の幸せを願って作ったものです。母親、祖母、叔母から近所の人々まで、小さな人形を作って持ち寄り、吊るして飾ったのが始まりだそうです。佐野さんは一人で作るので、1つの作品を仕上げるのに1年以上かかるそうです。

お陰様で、今年のひな祭りは華やかになりました。4月末日まで南館の正面玄関・図書室に展示します。正面玄関については、保護者の皆さんにも御覧いただけます。学校にお越しの際は、ぜひご覧ください。



私が出会った素敵な子供達の姿

- ①6年生を送る会で感謝の気持ちを伝えようと、1年生から5年生まで一生懸命練習に取り組んでいる姿を目にしました。「6年生に対する感謝の気持ち」が現れた姿です。そんな姿を見ていると、とても温かい気持ちになりました。これからも田富小学校の伝統として、「下級生を思う気持ち」や「上級生に感謝する気持ち」が受け継がれていってほしいと思います。
- ②「田富小ニュース」で紹介した「命の授業」で、2年生の子供たちは講師の廣瀬紀子先生に、「赤ちゃんはおなかの中でトイレはどうしているの?」「赤ちゃんはおなかの中で、ウィルスに感染しないの?」など、たくさんの質問をしました。「なぜ」「どうして」を感じる知的好奇心が、育っていることを感じました。調べたり聞いたりすることも大切ですが、まずは「たぶん〇〇かなあ」と、自分で予想してする学習習慣を育てていきたいと思います。

田富小ニュース

学校運営協議会



2月22日に第3回学校運営協議会が行われました。学校評価の結果をもとに御意見をいただきました。また、来年度の学校経営方針について御承認いただきました。日頃から田富小の子供たちを見守って下さっているみなさんから温かい言葉をいただきました。来年度に生かしていきたいと思います。

2年 命の授業



2月24日に北病院の廣瀬紀子さんをお招きして、2年生が命の授業を行いました。命の始まりは、鉛筆の先で紙に打った点ほどの大きさだったという話を聞いた子供たちは、驚きの声を上げていました。ここまで成長できたのは本当に奇跡的なことだと知り、改めて命の大切さを実感した子供たちでした。

6年生を送る会



2月26日に、6年生を送る会が行われました。新型コロナ対策のため、運動場での開催となりました。全校児童が一同に会し、直接思いを言葉で伝えることができ、とても素敵な送る会になりました。外で実施して大正解でした。新児童会を中心に5年生は、計画から準備、当日の運営まで大活躍でした。

6年 心の授業



中1ギャップという言葉があるように、子供たちは小学校から中学校への変化に戸惑い、不安を感じることがあります。そこで、3月10日に6年生を対象にした遠藤由紀子先生による心の授業を実施しました。「今はそういう時期なんだ」と肯定的に考えること、他者へSOSを出すことの大切さを学びました。

